



作品名 「景気」

金光八尾高等学校 一年 古谷 互央

日本は長い間、不景気だと言われています。それに対する税のあり方について、僕の考えを書きます。

まず、不景気の原因はいくつかあると思いますが、なかでも経済自体は良くなっているのに給与が上がっていないというのがあります。政府は法人税の引き下げで、企業に賃上げを促していますがあまり効果は感じられません。企業が賃上げできないのもやはり不景気で貯めておかないと不安というのがあるのかもしれませんが。

では、入る方ではなく出ていく方で考えると、僕が気になったのは所得税の徴収方法です。所得税は名前の通り収入にかかりますが、僕は貯金、それもあまり運用していない人の貯金にかけるべきだと思います。富の再分配の考えから、累進課税にしているのは納得のしようがあるのですが、収入が多いというのは当人の努力の結果でしょうから、収入に課税するのは間違っていると僕は考えます。なので、動かない貯金に税金をかけることで、皆がよりお金を使うようになり、景気がよくなると思います。

だからといって、貯金を全て吐き出すわけにもいかないのです。ある期間を設けて、その期間内に投資などで運用していれば税金はかからない、もしくは減額されるなどすれば収入も見こめて、より消費につながるのではないかと思います。数年前からNISAも始まっていますし、投資する人が増えてほしいと思われるのは明らかです。

こうしてお金が回るようになれば、企業も安心して賃上げすることができ、好循環が生まれるはずですが。なので、不景気を脱するためには、個人の資金運用と消費を活発にさせる必要があります。そのために、ただ所得の格差を減らすために徴税するのではなく、国民がお金を使うような税のあり方が求められていると思います。元来、物で交換する代わりに、様々な手間を省くことができるお金が使われるようになりました。物であったら、ずっと置いておけば腐ったり劣化したりします。お金も同じで、ただ腐らせるだけではもったいないです。皆がお金を回すことを考えることが何より大事だと僕は考えます。

